

パラアート (障害者アート)

国際交流活動事業

公益財団法人 日本チャリティ協会

〒160-0004 東京都新宿区四谷 1-19 アーバン四谷ビル 4 階

助成事業の概要

1 年延期となっていた、東京 2020 オリンピック・パラリンピックが開催されました。その好機に「障害者のスポーツ」とともに「障害者の文化」の重要性を「パラアート」という呼称の国際的周知とともに、国際的拡大を図り、芸術文化としての価値の認識、自立に向けた障害者の社会参加の促進と、その特性による芸術的表現を広く社会に理解してもらおうコンセプトで昨年に引き続き感染症対策を徹底のうえ開催いたしました。

(開催日時)

令和 3 年 10 月 13 日 (水) ~ 17 日 (日) 10 時から 18 時まで (会期: 5 日間)

(開催場所)

東京芸術劇場ギャラリー (豊島区池袋)

(来場者数)

延べ 1,008 人

(作品展示)

206 点 (応募数 主に国内より 538 点、外国は主に団体推薦)

絵画作品 日本 99 点 児童 20 点

海外 43 点 児童 8 点

書作品 日本 20 点 中国 6 点、韓国 10 点 (書画含)

(参加国)

25 か国 1 地域 (香港) (作品リスト参照)

<バーチャルギャラリー>の開設

昨年に引き続きコロナ禍に対応した WEB 展覧会の開催

<パラアートワークショップ・リモートによる講習会>の開催

事業の成果

「2021 パラアート TOKYO」第 8 回国際交流展「障害者の文化」の重要性を障害者の幅広い活動とその作品の認識の国際的拡大を図り、パラアートのホームページを改良し英語版の募集ページを作成しインターネットを通して海外への周知拡大を図り計画いたしました。

コロナの感染拡大の中、厳重な感染防止対策を施し「2021 パラアート TOKYO」国際交流展を開催することが出来ました。

展示会開催期間中は、多くの来場者の方々に障害者アート (パラアート) の魅力を堪能していただきました。しかし残念ながら、コロナの感染拡大により来日や自粛により来場できない作者や関係者の方々には、2021 バーチャルギャラリー <https://virtualgallery.paraart.jp/2021> WEB に開設し全作品 206 点を鑑賞いただくことが出来ました。

この国際交流展の観覧を通じ、障害に対する理解を深めるとともに、障害のある方が芸術文化活動を通じて自己を表現し、社会とより広く関わりを持ち、その自立と社会参加を一層促進し、障害の有無に関わらず、お互いを尊重しながら共生する社会の実現に繋がっていくことを改めて確認することが出来ました。

また、昨年より世界を震撼させているコロナ感染拡大は障害者の方の生活にも大きく影響し、行動

様式に特徴を持つ障害者が文化活動を行う上でより大きな制約となっておりますが、安全を考慮した出前によるワークショップやリモートでの講習、WEB 上でのバーチャルギャラリー開催は、障害者の方々の心身の健康と日常の活動維持に向け活動環境支援の一つとなりました。

<報告記録> 別添

1. 図録 11 月下旬完成 500 冊 出展者、後援、協力他関係者に配布

以上の事業を終了後、その成果物として、報告(バーチャルギャラリー・ワークショップ含む)を兼ねた「図録」を編集、11 月下旬に完成し、海外を含め、関係方面に配布、これからの取組や活動の機会拡大につなげていく。

成果の広報・公表

<「2021 パラアート TOKYO」第 8 回国際交流展の広報等>

- 1 日本チャリティ協会ホームページ、パラアートギャラリー新設掲載
 - ・全出品作品等の紹介、広報活動
 - 2 日本チャリティ協会広報誌「チャリティ・ニュース・クォーターリー」配付
 - ・国際交流展の開催概要掲載による広報活動(発行部数：1,500 部)
 - 3 国際交流展報告書(図録)作成
 - ・国際交流展図録送付による関係諸団体等への広報活動(発行部数：500 部)
 - 4 国際交流展の新聞掲載放映等
 - ・としまテレビ広報及び新聞(毎日新聞)掲載
 - 5 「三井住友アセットマネジメント株式会社」でのパラアート賞受賞や優秀作品の展示
 - ・社内ギャラリーでの展示及び広報活動
- 期日：令和 3 年 11 月 15 日(月)～12 月 3 日(金)

今後の展開

1 国際交流事業(「2022 パラアート TOKYO(仮称)」国際交流展)の開催

コロナ禍においても活動を止めない、サステイナブルな障害者の芸術活動支援を障害のある方が芸術文化活動を通じて自己を表現し、社会とより広く関わりを持ち、その自立と社会参加を継続支援して、障害の有無に関わらず、お互いを尊重しながら共存共生の社会へ向けていくコンセプトで開催いたします

また、今後の課題として芸術作品としての価値の認識、障害者の自立に向けた取り組みとして作者の収益を計り、希望者には即売の機会(例ーネットオークション)を試みる支援をしていく。

会期：2022 年 11 月予定 [5 日間]

場所：としまセンタースクエア